

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 30 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370405

研究課題名(和文) 20世紀中国プロパガンダ芸術の多角的研究 ポスター・連環画・样板戯

研究課題名(英文) Multilateral study of 20th century Chinese propaganda art: posters, comic books, model play

研究代表者

田村 容子 (TAMURA, Yoko)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(総合グローバル)・准教授

研究者番号：10434359

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：20世紀中国のプロパガンダ芸術について、ポスター・連環画(絵物語)・样板戯(革命模範劇)といったビジュアル・メディアに着目し、それらに共通して見られる社会主義文化の特徴を明らかにした。また、ソ連や日本の戦時プロパガンダ芸術と比較し、中国のプロパガンダ芸術を広く「全体主義芸術」の中に位置づけ、その独自性を考察した。

研究成果の概要(英文)：With propaganda art of the 20th century, we focused on visual media such as posters, comic books(Lianhuanhua) and model play(Yangbanxi), and clarified the characteristics of socialist culture common to them. In addition, compared to the Soviet Union and Japan's wartime propaganda art, we propose Chinese propaganda art is widely immersed in "totalitarian art" and considered its originality.

研究分野：中国文学

キーワード：中国文学 中国演劇 連環画 样板戯

1. 研究開始当初の背景

20世紀中国のプロパガンダ芸術については、ポスター・連環画（絵入り物語）・样板戯（革命模範劇）・映画といったジャンル別の研究にはすでに一定の蓄積がある。イーゴリ・ゴロムシトクが述べるように、中国のプロパガンダ芸術は、技法面では伝統的・民族的な様式を継承しながら、内容面はソビエトに学び、全体主義リアリズム芸術として発展していった。しかし、それぞれのジャンル内において伝統的な技法にもとづき継承された「図像の記憶」が、いかにジャンルの境界をまたいで相互に共有されたかという問題について、領域横断的・網羅的に比較・分析する試みは見受けられない。また、「全体主義芸術」という枠組みから、中国のプロパガンダ芸術を、先行するソビエトのスターリン様式や日本の戦争画などと比較する視点も、従来の研究からは見出せない。

本研究は、こうした背景をふまえ、ポスター・連環画・样板戯といったビジュアル・イメージを、非文字メディア・文字メディアの両方の視点から分析する。

他方、ロシア・日本の文学および絵画における戦争表象研究の蓄積を持つ連携研究者と共同で資料調査を行い、社会主義圏・非社会主義圏の事例と比較することにより、中国のプロパガンダ芸術を広く「全体主義芸術」の中に位置づけ、その独自性を考察する。代表者と連携研究者は、本研究にいたるまでに研究会「近現代戦の表象比較研究 戦争のメモリー・スケープ」(2012年)、「戦争の記憶を比較する：ロシア、日本、アジア」(2013年)で研究発表をし、基礎的な意見交換を行った。

2. 研究の目的

20世紀中国のプロパガンダ芸術について、ポスター・連環画・样板戯といったビジュアル・メディアに着目し、それらに共通して見られる社会主義圏の「国民国家」像を多角的に分析する。分析は、以下の三つのレベルに分けて行う。

- (1) 非文字メディアに見る表象の分析（「近代」表象としての爆発・閃光イメージの研究）
- (2) 文字メディアを比較対象として用いる表象の分析（女性表象研究）
- (3) 戦時表象の比較分析（全体主義芸術の表象比較研究）

戦時期から文化大革命の前後にかけて、現代中国のプロパガンダ・イメージとも連続する無謬の「国民国家」像が生成、流通、反転する過程とそのメカニズムを解明することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 研究体制

研究目的を達成するため、本研究を統括し、主として研究活動を進める研究代表者のほかに、ロシアと日本のプロパガンダ芸術に関

する専門家を連携研究者とした。この体制により、中国語圏のみならず、中国とロシア、ロシアと日本、日本と中国という隣接する地域の「全体主義芸術」を広く見渡すことが可能となった。

(2) 研究計画

研究目的を達成するための主な研究計画は以下の5点である。

定例研究会の開催：研究成果・研究情報の共有、資料閲覧、研究打ち合わせ

資料調査の実施：中国・ロシア・日本における資料調査

資料のデータベース作成

関連論考の研究会・学会における学術口頭発表

関連論考の紙媒体・WEB上における発表

4. 研究成果

(1) 研究成果の刊行

2016年、研究代表者の編著による『中国文化55のキーワード』を刊行した。代表者は中国のビジュアル・イメージ、非文字メディア、プロパガンダ芸術に関する章の執筆を担当し、広く一般に向けて研究成果の発信を行った。

2015年から2017年にかけて、連環画の研究専門誌である『連環画研究』を刊行し、1950年代から1970年代にかけての連環画に関する研究成果を毎年発表した。

(2) 資料調査

研究計画に沿って、海外調査および国内調査を行った。

海外資料調査

2017年、南京（中国）の南京民間抗日戦争博物館などにおける資料調査を行い、呉先斌館長にインタビューを行った。

2016年、モスクワ（ロシア）の全ロシア博覧センター・冷戦博物館などにおける資料調査を行った。連携研究者も同行し、ソ連のプロパガンダ芸術および日露戦争の記録に関する専門知識の提供を受け、意見交換をした。同年、台北（台湾）の国家図書館における資料調査を行った。

2015年、ハルビン（中国）の黒竜江省図書館、上海（中国）の上海図書館などにおいて資料調査を行った。

国内資料調査

2014年から2017年にかけて、国会図書館関西館、京都国際マンガミュージアム、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターにおける資料調査を行った。

国内所蔵の連環画については、資料のデータベースを作成した。また、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター所蔵の1950年代のソ連の雑誌から、中国との芸術交流に関する記事の抽出を行った。

(3) 国際学会

2017年、華南師範大学（中国広州市）にお

ける「第一回国際シンポジウム 中日比較の視点から始まる日本研究」で、研究成果の一部を発表した。

(4) 国内研究会

2015年から2017年にかけて、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターにおいて、中国とソ連のプロパガンダ芸術交流に関する研究発表を毎年行った。連携研究者およびスラブ・ユーラシア研究センターに所属する専門家との意見交換により、ソ連のプロパガンダ芸術に関する専門知識の提供を受けた。

2015年、京都国際マンガミュージアムにおける「知られざる中国 連環画(れんかんが)～これもマンガ?～」展学術シンポジウム「連環画、そのさまざまな顔～他ジャンルとの接点をさぐる～」で、連環画に関する研究発表を行った。同年、表象文化論学会第10回大会シンポジウム「爆発の表象文化論」において、研究成果の一部を発表した。

(5) 研究成果の社会還元

『中国文化 55 のキーワード』の刊行のほか、『中華文化スター列伝 ドラゴン解剖学 竜の子孫の巻』など、一般書において研究成果の一部を発表した。

京都国際マンガミュージアムにおける学術シンポジウムも一般向けに開催されたものであり、来聴者との意見交換を通して、連環画に関する研究成果の社会還元に努めた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

田村容子、どうやって連環画をかくの?、連環画研究、査読無、第6号、2017、131-151

田村容子、男旦(おんながた)が脱ぐとき 中国演劇における乳房の表現、乳房文化研究会 2015 年度 講演録、査読無、2016、125-145

田村容子、爆発する連環画 『地雷戦』と「爆破英雄」たち、連環画研究、査読無、第5号、2016、40-63

田村容子、「蘇聯展覧館」の記憶 中華人民共和国におけるソ連イメージの形成と変遷、饜饜、査読無、第23号、2015、30-60

田村容子、トイレの革命一九五八、連環画研究、査読無、第4号、2015、30-53

〔学会発表〕(計 7 件)

田村容子、梅蘭芳を描いた日本人：福地信世、第一回国際シンポジウム 中日比較の視点から始まる日本研究、2017年3月25日、広州市(中国)

田村容子、1950年代の中国とソ連の芸術交流：中国プロパガンダ芸術にみる社会主義の受容と移植、スラブ・ユーラシア研究センター客員研究員セミナー、2017年3月1日、

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター(北海道札幌市)

田村容子、紅い革命バレエの系譜 ソ連・中国・ベトナムの社会主義バレエ、研究会「紅い星に願いを：社会主義文化の伝播と比較」、2016年8月20日、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター(北海道札幌市)

田村容子、地雷戦 中国の画報・映画・連環画における閃光と爆発の像、表象文化論学会 第10回大会シンポジウム「爆発の表象文化論」、2015年7月4日、早稲田大学小野講堂(東京都新宿区)

田村容子、京劇と連環画、「知られざる中国 連環画(れんかんが)～これもマンガ?～」展学術シンポジウム「連環画、そのさまざまな顔～他ジャンルとの接点をさぐる～」、2015年5月30日、京都国際マンガミュージアム(京都府京都市)

田村容子、1950年代の中国プロパガンダ芸術におけるソ連の表象 連環画にみる「蘇聯展覧館」の記憶、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター客員研究員セミナー、2015年2月10日、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター(北海道札幌市)

田村容子、中国の戦争映画における鬼子と(奶子)、戦争と社会主義のメモリー・スケープ、2014年9月16日、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター(北海道札幌市)

〔図書〕(計 3 件)

武田雅哉・加部勇一郎・田村容子編著、ミネルヴァ書房、中国文化 55 のキーワード、2016、総 298 頁

中国モダニズム研究会、関西学院大学出版会、中華文化スター列伝 ドラゴン解剖学 竜の子孫の巻、2016、総 222 頁(田村容子、183-195)

濱田麻矢・薛化元・梅家玲・唐顥芸編、勉誠出版、漂泊の叙事 一九四〇年代東アジアにおける分裂と接触、2015、総 561 頁(田村容子、479-508)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田村 容子 (TAMURA, Yoko)
福井大学・学術研究院教育・人文社会系部
門 (総合グローバル)・准教授
研究者番号：10434359

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

越野 剛 (KOSHINO, Go)
北海道大学・スラブ・ユーラシア研究セン
ター・准教授
研究者番号：90513242

向後 恵里子 (KOGO, Eriko)
明星大学・人文学部・准教授
研究者番号：80454015

(4) 研究協力者

()